

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03224

研究課題名(和文) 校内研修プログラムとしての体育授業研究の開発と海外への紹介

研究課題名(英文) Development of Lesson Study on Physical Education for Professional Development for School Teachers

研究代表者

木原 成一郎 (KIHARA, SEIICHIRO)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20214851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：(1)日本の校内研修では、授業研究の過程に「省察」を位置づけ、体育授業に関する教師の知識と教材観や子ども観等の信念を形成する授業研究を実施した。また、青年海外協力隊の隊員として派遣される体育教員に行われた補完研修で、体育授業研究を実施し、一定程度の省察能力を育成した。(2)研究協力者の林楠が中国浙江省杭州の小学校で初任者に対する研修として授業研究を実施した。その結果、中国の小学校体育専科教師の「省察」は教師の行動に関して向上が見られた。また、研究協力者のMike Jessがスコットランドで2017年秋学期に教員養成段階と小学校の現職研修の校内研修において授業研究を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、授業研究における省察を通して体育授業に関する教師の知識と信念を形成する校内研修プログラムを開発し、海外に紹介することであった。日本の授業研究は海外に紹介されているが、体育科の校内研修の方法としては紹介されていない。

中国浙江省では体育授業研究の方法を教師の省察能力を高めるために改善することができた。また、スコットランドとノルウェーにおいて、初めて教員養成段階と現職教育の方法として授業研究を紹介し実施することができた。日本の体育授業研究を海外に紹介することにより、体育の現職教育改善の国際的な提案に着手することができたことが本研究の学術的意義であり社会的意義である。

研究成果の概要(英文)：(1) In the in-school training in Japan, "reflection" was positioned in the course of lesson study, and an in-school training program was implemented that formed teachers' knowledge of physical education classes and their beliefs in teaching materials and children. In addition, as a supplementary training for physical education teachers dispatched as a member of the Japan Overseas Cooperation Volunteers, a physical education lesson study was conducted and a certain degree of reflection was developed.

(2) Lin Nan, a research collaborator, conducted a class study at a primary school in Hangzhou, Zhejiang Province, China, as a training course for newcomers. As a result, the "reflection" of Chinese elementary school physical education teachers has improved in terms of teacher behavior. Mike Jess, a research collaborator, conducted a class study in Scotland in the fall semester of 2017, during the teacher training phase and in-service training at elementary schools.

研究分野：体育科教育学

キーワード：授業研究 体育科教育 校内研修 現職教育 省察 リフレクション・シート 協議会

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)日本の授業研究は、1990年代以降、Lesson Studiesとして世界各国に広がり、算数・数学科や理科、社会科等の授業改善及び教師の成長の方法として紹介されている。2007年に、国際授業研究会(WALS: World Association of Lesson Studies)が、香港、アメリカ、日本、中国、イギリス等の研究者達によって設立され、毎年各国において国際大会が開催されている。

日本の校内研修として実施される授業研究を、授業改善や教師教育の方法としてアメリカ合衆国に紹介し、海外諸国が日本の授業研究に注目する契機を作ったキャサリン・ルイスは、校内研修として実施される授業研究の特徴を以下のように把握している。一つは、校内研修としての授業研究は、校内の教員と協働して指導案を作成したうえで研究授業を実施し、その後協議会の実施する、という過程をたどるが、この過程で、授業者と観察者を問わず教師は授業に関する知識や信念を育てているという特徴である。もう一つは、授業研究の過程で学校の教師集団の中に授業を語る言葉や用語、協働的な同僚関係、授業改善への熱意などの意識が生まれているという特徴である(Lewis, 2000)。

国内においては、鈴木聡(2010)が、現職教育としての体育科の授業研究の機能に注目し、小学校の教師が体育科の授業研究に期待していることとして、「同僚性・関わり」「指導者からの評価」「指導技術向上」「教科内容追究」「自己改革」という5つの機能を指摘した。

このように、国内外の校内研修における授業研究の効果は、教師の力量形成と教師同士の関係の強化につながることで認識されている。しかし、その活用については教科により差異がある。すなわち、国内では体育科の授業研究が校内研修の方法として注目されてきているのに対して、海外に、体育の授業研究は校内研修の方法として紹介されてはいないのである。このことから、校内研修の方法として日本の体育授業研究を海外に紹介し、普及させることは、国際的に体育の現職教育の方法を改善することにつながると考えられた。

(2)Harris(2012),Faucette, N., et al. (2007), Petrie(2010)によれば、英語圏では学校外の専門家が指導する体育の行政研修が全国レベルで実施されたが、行政研修に参加した教師が学校の同僚教師にその成果を伝達し、同僚教師がそれらを学習する校内研修を開発することが課題とされている。研究代表者らは、これまでに校外研修を受けた教師が校内研修でその成果を同僚教師に伝えることで、同僚教師の運動教材や指導法の理解を促すために効果的であることを明らかにした。このことから、日本で校内研修として実施されている授業研究を海外に紹介することは、国際的な課題とされた体育の校内研修の方法の改善に貢献できると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、授業研究における省察を通して体育授業に関する教師の知識と教材観や子ども観等の信念を形成する校内研修プログラムを開発し、海外に紹介することである。1990年代以降、日本の授業研究はLesson Studiesと呼ばれ授業改善及び現職教育の方法として海外に紹介されているが、体育科の校内研修の方法としては紹介されていない。そこで、日本の体育授業研究を海外に紹介することは、体育の現職教育改善の国際的な提案になると考えられた。

3. 研究の方法

(1)図1のように、本研究は1年目に、「リフレクションシート」を活用した校内研修プログラムを企画・運営してその効果を検証し、校内研修プログラムを開発した。2年次には開発したプログラムを海外へ普及するための準備として、海外の校内研修の実態を調査した。3年次に海外の研究協力者に日本の授業研究に参加していただき、実態を理解していただいた。そして、その研究協力者の協力を得て、我々の校内研修プログラムを海外で実施し普及した。4年次は、それらの成果を国際シンポジウムで交流・総括し、校内研修プログラムの意義と限界を明らかにした。4年間を通した研究の手続きは図2を参照していただきたい。

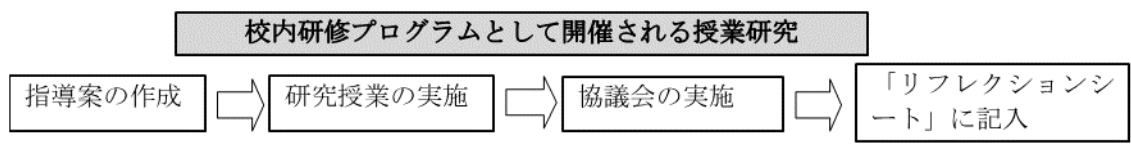


図1 「リフレクションシート」を活用した校内研修プログラム

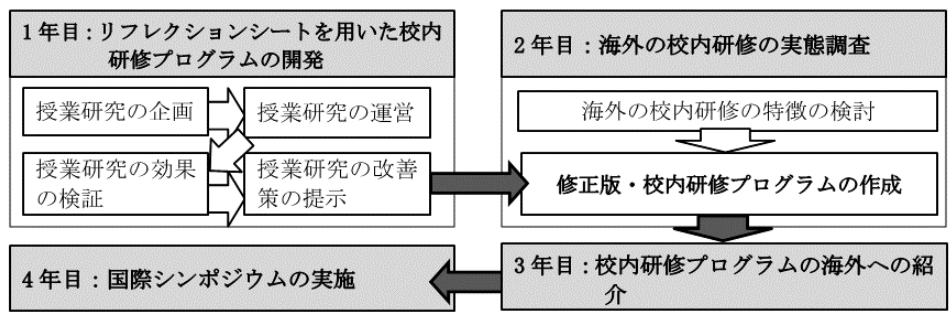


図2 4年間にわたる研究の手続き

(2) 本研究における研究代表者・研究分担者の役割・相互関係を説明する。図3のように、本研究は木原が全体の総括を務めた。校内研修プログラムの開発と効果の検証の総括を大後戸が務め、村井と加登本がプログラムの開発と効果の検証を行った。また、校内研修の海外調査とプログラムの海外普及の総括を岩田が務め、中国への調査と普及を久保が、シンガポールの調査と普及を齊藤と嘉数が行った。分担者は研究協力者と連携を密に取りながら研究を進めた。また、分担者はそれぞれ相互に連携を密にとり研究を進めた。

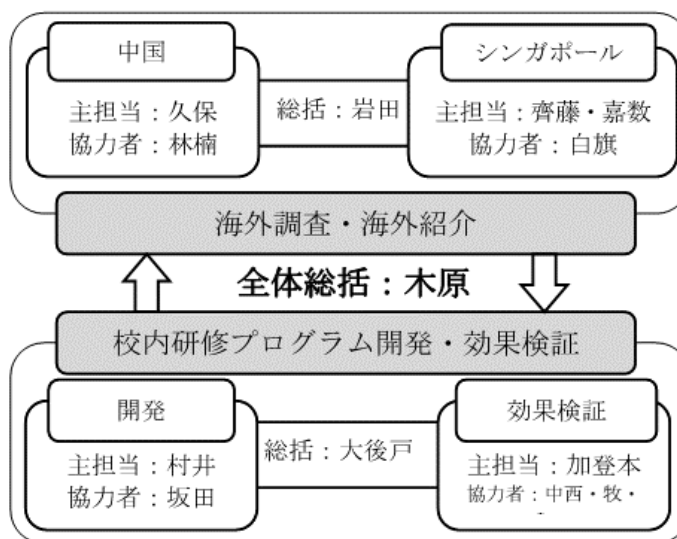


図3 研究代表者・研究分担者の役割・相互関係

#### 4. 研究成果

(1) 日本の校内研修では、授業研究の過程に「省察」を位置づけ、体育授業に関する教師の知識と教材観や子ども観等の信念を形成する校内研修プログラムを作成した。広島市立A小学校及びB小学校を対象に、校内研修の授業研究においてワークショップ型協議会を実施し、協議会后に「リフレクションシート」に記入させた。A小学校において3年間の継続的な校内研修会に参加した教員に対してグループインタビュー調査を行い、参加者の「リフレクションシート」に対する意見を求めた。その結果から次の成果が確認できた。成果として、授業研究の参加者は、「リフレクションシート」を用いて「省察」することで授業者と観察者のそれぞれが、暗黙であった自己の実践的知識と教材観や子ども観等の信念を自覚することができた。

(2) 中国の校内研修における授業研究において、以下のようなプロセスが行われているかどうかを調査した。指導案作成：校内の教員による指導案の作成において、単元全体の指導内容を吟味し、到達目標と評価基準を設定する。研究授業：授業者は、作成した指導案に基づいて授業を実施する。観察者は、所属学年等の小集団を組織し、小集団ごとに観察対象を分担して観察する。協議会：授業者は、自身の授業について自評する。観察者は、観察結果を意見交換し、その結果を発表する。そして、助言者が、批評を加える。省察：授業者と参観者は感想力-D等に授業研究を通して気づいた内容を記入する。そして、中国の状況に適合するように我々の校内研修プログラムを修正し、研究協力者の林楠が中国浙江省杭州の小学校で初任者に対する研修として授業研究を実施した。その結果、中国の小学校体育専科教師の「省察」は教師の行動に関して向上が見られたが、子どもの学習に関する「省察」に課題が残っていることが分かった。

(3) スコットランドでは2017年秋学期に教員養成段階と小学校の現職研修の校内研修において授業研究を実施した。そして参加者にインタビューを実施しそれを分析して、スコットランドの小学校学級担任教師の省察の実態を把握した。その成果は、第1に、教員養成での授業研究では学生は教え方に省察を焦点化したことが分かった。第2に、学級担任教師と体育専科教師と大学の教師教育者の3名の小グループによる小学校での体育授業研究では、研究授業を行った学級担任教師は、参観した体育専科教師から、子どもの意欲的参加や教師の励ましの点で肯定的フィードバックを受け、授業研究という研修にとっても好意的な回答をした。この研究の実施と資料の分析には研究協力者のエジンバラ大学のMike Jess氏に協力を依頼した。

(4) 研究分担者の齊藤が、研究協力者の白旗氏とJICAの協力のもと青年海外協力隊の隊員として派遣される体育教員に行われた補完研修で、「リフレクションシート」の活用による体育授業研究を実施し、海外へ派遣される青年海外協力隊の隊員の保健体育授業に関する省察の実態を把握するとともに、一定程度の省察能力の育成をすることができた。

(5) 今後の展望としては、中国とスコットランドで、体育授業研究をその国の制度や教師文化を踏まえて、より効果的な方法に改善するとともに、継続的に教員養成と現職研修のプログラムとして継続して実施していく。さらに、研究代表者や研究分担者が研究的に連携している、イギリス、ノルウェー、オーストラリア、シンガポール、ペルー、ドイツ等の諸外国に我々の行っている校内研修としての体育授業研究を紹介し、試行していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Nakanishi Hiroshi, Kihara Seiichiro, Osedo Kazuki, Kubo Kenji	4. 巻 16
2. 論文標題 A Study on Constructing the Order of the Teaching Materials on Apparatus Gymnastics to Learn "Spring Motion": Focusing on the Relation between "Forward Roll Bridge" and "Spring Motion from a Higher Level" *	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Sport and Health Science	6. 最初と最後の頁 89 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.5432/ijshs.201802">https://doi.org/10.5432/ijshs.201802</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 前田心平・木原成一郎	4. 巻 66.4
2. 論文標題 ルールづくりに視点を当てたボール運動の学習～第6学年 ボール運動 ネット型 「バレーボール」の 実践を通して～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横矢綾乃・木原成一郎	4. 巻 66.5
2. 論文標題 課題解決に向けたルールづくりを取り入れたボール運動の学習～第6学年 ボール運動 ネット型 「ソ フトバレーボール」の実践を通して～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 栗塚祐二・木原成一郎	4. 巻 66.8
2. 論文標題 学校全体の中でドル平泳法からクロール泳法へつなげる教材づくり (その2)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅本真知子・木原成一郎	4. 巻 66.1
2. 論文標題 研究の柱(場づくり)を中心に据えた校内研究のモデル授業づくり 高学年にぴったりの後転指導～後転倒立にチャレンジ!～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原成一郎	4. 巻 37.3
2. 論文標題 学習指導要領の改訂における評価、評定の動向と同志会の実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 たのしい体育・スポ・ツ	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hitoshi TAKAHASHI, Takashi YONEZAWA, Kazuki OSEDO, Hiroyoshi KINOSHITA, Keita KAMEOKA, Yuka NAKAI, and Yumiko SUZUKI	4. 巻 2
2. 論文標題 Research on in-service training for teachers as continuous learners (2) Content of and measures related to in-service training	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Professional Development for Teachers and School Leaders	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuki Oseido, Kenji Kubo, Hiroshi Nakanishi	4. 巻 21
2. 論文標題 A Content Analysis of Self-Assessments Done by Pupils using Videos in Physical Education Classes in Elementary Schools: Focusing on Relationship with Instructions Given by Teacher	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Curriculum Depeloment and Practice	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大後戸一樹, 坂田行平, 三上隼人	4. 巻 25
2. 論文標題 小学校体育科の思考力・判断力を評価するための動画テストの開発(2):4画面同時再生映像を活用して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本穂波・八田篤司・加登本仁	4. 巻 68
2. 論文標題 中学校マット運動の授業における「対話的学び」に関する事例研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 滋賀大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤一彦 松本佑介 濱本想子	4. 巻 25
2. 論文標題 競争を主題化した長距離走授業の成果と課題 中学生の長距離走に対する愛好定期態度の変容に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤一彦	4. 巻 57
2. 論文標題 身体と心が拓く、未来:世界に広がるスポーツの取り組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 mundi	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山平芳美 齊藤一彦 白石智也	4. 巻 67
2. 論文標題 カンボジアの初等教員養成における体育科教育法の現状と課題：シハヌークビル州とカンポット州の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域	6. 最初と最後の頁 269-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木原成一郎	4. 巻 67.1
2. 論文標題 ルール学習を通して育まれる資質・能力とは	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉数健悟・上地幸市・仲嶺香代	4. 巻 9
2. 論文標題 教師志望学生の力量形成を目指した「教職インターンシップ」の在り方について - 教育委員会・学校・大学の連携に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職実践研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上地幸市・嘉数健悟	4. 巻 22
2. 論文標題 実践的指導力の基礎を培う「教職インターンシップ実践」の在り方 - 学校と大学の協働による実践を通して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田昌太郎・草原和博・川口広美	4. 巻 41
2. 論文標題 教師教育者の成長過程に関する質的研究 TAの経験はアイデンティティ形成にどのように影響を与えるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩田昌太郎・濱本想子・中川昂ほか4名	4. 巻 25
2. 論文標題 「授業構想力」からワークショップ型校内研修の成果をいかに俯瞰するか X市中学校保健体育部会の研修を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 127-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西紘士	4. 巻 67
2. 論文標題 ルール学習に効果的な“タイミング”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西紘士	4. 巻 1215
2. 論文標題 卒業記念クラスマッチをしよう	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 中西紘士	4. 巻 1213
2. 論文標題 体育科の授業の中で競争をどのように取り扱うか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西紘士	4. 巻 66
2. 論文標題 思考力・判断力・表現力等を育み“持久走嫌い”をなくす!	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥倉潤也・木原成一郎・坂田行平	4. 巻 第5号
2. 論文標題 小学校4年生の体育授業における戦術的知識の変容に関する一考察：フラッグフットボールにおけるオフenseのガードに着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 105-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.15027/45483">http://doi.org/10.15027/45483</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西紘士・木原成一郎・大後戸一樹・久保研二	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 「はね動作」の習得のための教材の順序構造化に関する研究：「前転ブリッジ」と「ステージからのはね下り」の関係に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 739-755
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.5432/jjpehss.17002">https://doi.org/10.5432/jjpehss.17002</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木原成一郎	4. 巻 第65巻,第11号
2. 論文標題 校内研修としての授業研究への注目：連載を始めるにあたって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 42-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田心平・木原成一郎	4. 巻 第65巻,第13号
2. 論文標題 指導内容を明確にしたボール運動の学習：第5学年ボール運動 ゴール型「ハンドボール」の実践を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原成一郎・久保研二・謝娟	4. 巻 第65巻,第13号
2. 論文標題 中国北京市海淀区における体育教師の現職研修制度と授業研究の改善	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口諒・明石智・齊藤一彦・白旗和也	4. 巻 第44巻
2. 論文標題 青年海外協力隊体育隊員候補生の「リフレクション」の実態に関する事例研究：技術補完研修における模擬授業に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島体育学研究	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加登本仁	4. 巻 34
2. 論文標題 次期学習指導要領と異質協同のグループ学習	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 運動文化研究	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加登本仁	4. 巻 301
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングと私たちのグループ学習	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 たのしい体育・スポーツ	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加登本仁	4. 巻 65(13)
2. 論文標題 体育の独自性を「学びに向かう力、人間性等」に求めることへの懸念	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉数健悟・上地幸市	4. 巻 7
2. 論文標題 教育実習における教師志望学生の教師観の変容に関する事例研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教職実践研究	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田昌太郎・中山泉・川口諒・正木志歩・有馬尊・濱本想子・則清陽香・中川昂・室本佳祐・佐藤由惟	4. 巻 24
2. 論文標題 体育授業は学級経営にどのような影響を及ぼすのか：初任の小学校教員を事例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 175-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.15027/45471">http://doi.org/10.15027/45471</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 由佳・久保 研二・伊藤 豊彦	4. 巻 Vol.37 No.2
2. 論文標題 体育授業における生徒の動機づけに及ぼす教師の働きかけの影響に関する実践的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 スポーツ教育学研究	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大後戸 一樹・末吉 知規	4. 巻 24
2. 論文標題 小学校体育科の思考力・判断力を評価するための動画テストの開発：跳び箱運動の「台上前転」を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.15027/45457">http://doi.org/10.15027/45457</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 栗塚祐二・木原成一郎	4. 巻 第66巻,第2号
2. 論文標題 研究の柱(場づくり)を中心に据えた校内研究のモデル授業づくり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiichiro Kihara, Kenji Kubo	4. 巻 14
2. 論文標題 The Learning Process of Classroom Teachers on Elementary School Physical Education:	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Sport and Health Science	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.5432/ijshs.201623">http://doi.org/10.5432/ijshs.201623</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加登本仁・辻延浩	4. 巻 第64巻第12号
2. 論文標題 情報共有システムの導入で同僚の育ちを支える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 29~33頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉数健悟・上地幸市	4. 巻 19
2. 論文標題 教師の資質能力の形成を目指した大学と関係機関との連携のあり方について - A市教育委員会の取り組み -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 沖縄大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 119-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 0件/うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Seiichiro Kihara
2. 発表標題 Employing Lesson Study to Support Japanese Primary Classroom Teachers' Reflection Skills in Physical Education
3. 学会等名 International Association for Physical Education in Higher Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅原久頌・加登本仁
2. 発表標題 運動感覚に着目した中学校短距離走指導に関する事例研究
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第38回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山平 芳美・齊藤一彦・白石 智也
2. 発表標題 カンボジアの初等教員養成における体育科教育法の現状と課題
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会第25回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Felix David , Kazuhiko Saito
2. 発表標題 A study on the characteristics of school physical education in Senegal
3. 学会等名 23rd ECSS Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsumoto, Y., Saito, K
2. 発表標題 THE EFFECTS OF LEARNING “ TACTICS FOR WINNING ” FOR LONG-DISTANCE RACES IN JUNIOR HIGH SCHOOL PHYSICAL EDUCATION CLASSES
3. 学会等名 23rd ECSS Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山平 芳美・齊藤 一彦・岩田昌太郎・木村寿一
2. 発表標題 カンボジアの初等教員養成段階における体育授業観に関する基礎的研究
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嘉数健悟・岩田昌太郎・濱本想子・白石智也
2. 発表標題 教育委員会・学校との連携による「教職インターンシップ」の在り方
3. 学会等名 日本教科教育学会第44回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shotaro Iwata, Anja Swennen, Aiko Hamamoto
2. 発表標題 Becoming a Beginning Teacher Educator in Japan: How does beginning teacher educators change identity through teacher assistants and lecture?
3. 学会等名 ATEE (ヨーロッパ教師教育協会) conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shotaro Iwata and Tomoya Shiraishi
2. 発表標題 An Attempt at the Theorization of Physical Education Lesson Studies: A 20-year scoping review of the literature.
3. 学会等名 WALS (世界授業研究学会) conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石橋 奎吾, 久保 研二
2. 発表標題 中学校体育授業における学習者のリフレクションの変容に関する研究
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第38回学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木原成一郎、中西紘士
2. 発表標題 体育授業で育てる資質・能力に関する一考察～小学校高学年のハードル走のルール学習で育てる「知識」「技能」「態度」を中心に
3. 学会等名 日本体育学会 第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kenji Kubo, Seiichiro Kihara
2. 発表標題 The Meaning and Issues about Lesson Study on Physical Education for School Training in Japan
3. 学会等名 The World Assosiation of Lesson Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Lin Nan
2. 発表標題 The Development of New Physical Education Teachers' Reflective Ability Based on Lesson Study in China
3. 学会等名 The World Assosiation of Lesson Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Mike Jess
2. 発表標題 Introduction Lesson Study within Primary Physical Education Teacher Education in Scotland
3. 学会等名 The World Assosiation of Lesson Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木原成一郎, 中西紘士
2. 発表標題 校内研修における体育授業の省察に関する事例研究
3. 学会等名 日本体育学会第68回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加登本仁
2. 発表標題 集团的活動システムとしての体育学習における「道具」概念に関する検討
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第37回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田大央・加登本仁
2. 発表標題 小学校教師の体育科への積極的関与を支える要因に関する研究
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第37回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村井潤
2. 発表標題 小学校体育科の模擬授業における大学教員の指導に関する事例研究
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第37回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iwata, S and Swennen A.,
2. 発表標題 Teacher Education in Japan and the Netherlands: Main Characteristics and Their Impact on Teacher Educators
3. 学会等名 ATEE conference 2017 in Dubrovnik (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嘉数健悟
2. 発表標題 初任保健体育教師が直面する授業の実践について抱える課題：学期の課題に着目して
3. 学会等名 日本保健科教育学会第2回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Kubo, Lin Nan, Mike Jess, Seiichiro Kihara, Shotaro Iwata
2. 発表標題 Development of Lesson Study on Physical Education through School Training: Case studies in Japan, China, and Scotland
3. 学会等名 The World Association of Lesson Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Kubo・Takashi Yonezawa・Hideo Miyaki・Yuka Nakai
2. 発表標題 An Instructional Reform at Teacher Training Universities in Japan
3. 学会等名 WERA Focal Meeting & HKERA International Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Seiichiro Kihara, Kenji Kubo
2. 発表標題 The Learning Process of Classroom Teachers on Elementary School Physical Education:
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木原成一郎, 中西紘士, 與倉潤也, 山名康介, 栗塚祐二, 前田心平
2. 発表標題 校内研修における体育授業の省察に関する事例研究
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西紘士, 木原成一郎, 大後戸一樹, 久保研二, 末吉知規
2. 発表標題 小学校の器械運動における「はね動作」習得のための指導計画の開発
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 坂田行平、木原成一郎、大後戸一樹
2. 発表標題 小学校体育科の授業における戦術的知識の変容に関する一考察
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hitoshi Kadomoto
2. 発表標題 A Study on the Turning Points of Elementary School Teachers' Professional Development in Physical Education Classes: Focusing on Leading Teachers in Physical Education
3. 学会等名 The World Association of Lesson Studies(WALS) International Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嘉数健悟・岩田昌太郎・齊藤一彦・川口諒
2. 発表標題 シンガポールにおける教師の力量形成に資する授業研究の取組み - インタビュー調査を手がかりとして -
3. 学会等名 日本教科教育学会第42回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shotaro Iwata
2. 発表標題 What is the impact of "Short-term Lesson Study" in Japanese primary school?
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies(WALS), International Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 グループ・ディダクティカ編（木原成一郎、中西紘士共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 深い学びを紡ぎだす	

1. 著者名 鈴木 由美子編（久保研二共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 253
3. 書名 教師教育講座 第6巻 教育課程論	

1. 著者名 加登本仁 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 創文企画	5. 総ページ数 212(pp.40-43. pp.192-199.p.211.執筆分担)
3. 書名 スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり	

1. 著者名 木原成一郎（日本教科教育学会編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 213頁(pp.148-153分担執筆)
3. 書名 教科教育学研究ハンドブック-今日から役に立つ研究手引き-	

1. 著者名 岩田昌太郎 (日本教科教育学会編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 213頁 (pp. 154-159分担任執筆)
3. 書名 教科教育学研究ハンドブック-今日から役に立つ研究手引き-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

広島大学学術情報リポジトリ(HiR) <a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/search?all=%E6%9C%A8%E5%8E%9F%E6%88%90%E4%B8%80%E9%83%8E&amp;include_file=exclude">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/search?all=%E6%9C%A8%E5%8E%9F%E6%88%90%E4%B8%80%E9%83%8E&amp;include_file=exclude</a>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大後戸 一樹 (Osedo Kazuki) (20632821)	広島大学・教育学研究科・准教授  (15401)	
研究分担者	中西 紘士 (NAKANISHI Hiroshi) (30823637)	環太平洋大学・次世代教育学部・准教授  (35314)	
研究分担者	加登本 仁 (kadomoto Hitoshi) (40634986)	安田女子大学・教育学部・准教授  (35408)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩田 昌太郎  (Iwata Shotaro)  (50433090)	広島大学・教育学研究科・准教授   (15401)	
研究分担者	嘉数 健悟  (Kakazu Kengo)  (50612793)	沖縄大学・人文学部・准教授   (38002)	
研究分担者	齊藤 一彦  (SAITO Kazuhiko)  (60413845)	広島大学・教育学研究科・教授   (15401)	
研究分担者	久保 研二  (Kubo Kenji)  (90594698)	島根大学・学術研究院教育学系・准教授   (15201)	
研究分担者	村井 潤  (Murai Jun)  (90610890)	武庫川女子大学・教育学部・講師   (34517)	
研究協力者	林 楠  (LIN NAN)		
研究協力者	白旗 和也  (SHIRAHATA KAZUYA)  (20515184)	日本体育大学・子ども学部・教授   (32672)	
研究協力者	牧 貴愛  (MAKI TAKASHI)  (80610906)	広島大学・国際協力研究科・准教授   (15401)	